

現行ガイドラインと改訂ガイドラインの目次項目との対照

(太字は変更、新規を示す)

現行ガイドライン	改訂後
<p>1 本ガイドラインの位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 近年までの状況 (2) 特定計画制度以降の状況 (3) 法律改正と抜本的な鳥獣捕獲強化対策の必要性 (4) 本ガイドラインの位置づけ <ul style="list-style-type: none"> 1) 2016 (平成 28) ~2018 (30) 年度までの取り組みの重要性 2) 一層の捕獲推進の必要性 3) 本ガイドラインのコンセプト <p>2 本編</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) PDCA 順応的管理の必要性 <ul style="list-style-type: none"> 1) 順応的管理が何故必要か 2) 順応的管理の実際のステップ (PDCA の流れ) 3) 生息数を減少させられなかった理由 (PDCA のどこに問題があったか) 4) 科学的検証の実行の必要性 5) 平成 25 年度補正予算事業による生息数推定の事業内容と成果の取り扱い (2) Plan ゾーニング <ul style="list-style-type: none"> 1) 管理ユニット毎の目標設定 2) 管理ユニット内のゾーニング (3) Plan 捕獲目標の設定 (4) Do 捕獲体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> 1) 指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画の策定に向けて 	<p>1 本ガイドラインの位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 特定計画制度の運用状況 (2) 抜本的な鳥獣捕獲強化対策の進捗状況 (3) ガイドラインの変遷 (4) 本ガイドラインのポイント (要点) <ul style="list-style-type: none"> 1) 生息状況の多様化 2) 地域の状況に応じた目標設定や対応方針の必要性 3) 本ガイドラインのコンセプト <p>2 本編</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) PDCA 順応的管理の必要性 <ul style="list-style-type: none"> 1) 順応的管理が何故必要か 2) 順応的管理の実際のステップ (PDCA の流れ) 3) 生息数を減少させられなかった理由 (PDCA のどこに問題があったか) 4) 科学的な目標値の設定と評価 5) 捕獲情報の収集と情報の見える化 (2) Plan に対応した Check・Act (3) Plan 目標設定 <ul style="list-style-type: none"> 1) 生息状況等の類型に応じた目標設定 (4) Plan 地域区分 (管理ユニット・ゾーニング) <ul style="list-style-type: none"> 1) 管理ユニット 2) ゾーニング (5) Do 捕獲区分の考え方 <ul style="list-style-type: none"> 1) 捕獲区分の理解の必要性 2) 登録狩猟の特徴 3) 許可捕獲 (鳥獣の管理の目的での

現行ガイドライン	改訂後
<p>2) 特定計画（指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画等）と被害防止計画との具体的整合のあり方</p> <p>3) 現在どのような課題があるか、状況を把握しておく必要性（止めさし、搬出・埋設、費用・報酬、等）</p> <p>4) 錯誤捕獲への対処</p> <p>5) 今後捕獲が進んでいった場合の留意点</p> <p>(5) Check 状況把握（モニタリング）</p> <p>1) モニタリングの必要性</p> <p>(6) Check モニタリング結果の評価</p> <p>1) 複数の指標を用いた検討の必要性</p> <p>(7) Act 順応的管理を行うために</p> <p>1) 評価と合意形成の場の区別</p> <p>2) 検討の前の十分な解析の必要</p> <p>3) 計画の推進体制（専門担当・PDCAを回す体制）</p> <p>4) 年間スケジュール</p> <p>3 参考資料</p> <p>…前ガイドラインに掲載していた内容を網羅。全般の考え方や留意点を記載</p> <p>(1) ニホンジカの保護・管理の基本的な考え方と課題</p> <p>1) ニホンジカの個体群管理</p> <p>2) モニタリングと科学的な評価</p> <p>3) 連携した保護・管理</p> <p>(2) 特定計画の作成と実施</p>	<p>捕獲：被害防止目的の捕獲・数の調整目的の捕獲）の特徴</p> <p>4) 指定管理鳥獣捕獲等事業の特徴</p> <p>5) 特定計画（指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画等）と被害防止計画との具体的整合のあり方</p> <p>(6) Do 実施計画について</p> <p>(7) Check 現状把握（モニタリング）</p> <p>1) なぜ、モニタリングが必要か</p> <p>2) モニタリングの主な種類</p> <p>(8) Check モニタリング結果の評価</p> <p>1) 複数の指標を用いた検討の必要性</p> <p>2) 類型に応じた動向判断</p> <p>3) 特定計画における評価</p> <p>(9) Act 順応的管理を行うために</p> <p>1) 評価と合意形成の場の区別</p> <p>2) 検討の前の十分な解析の必要</p> <p>3) 計画の推進体制（専門担当・PDCAを回す体制）</p> <p>4) 年間スケジュール</p> <p>3 計画作成編</p> <p>…計画の目次項目に沿って記入上のポイントを記載</p>

現行ガイドライン
1) 現状把握と保護・管理目標の設定
2) 特定計画の策定・実行の具体的な進め方
3) 具体的な管理目標及び管理方式の設定
4) モニタリング等
5) 計画の実施体制及び実施状況の評価
(3) その他
1) ニホンジカの基本的生態等
2) 階層ベイズ法概要
3) 麻酔銃の理解
4) 平成 24 年度検討会の第 11 次計画レビュー
5) 用語集
6) 引用文献

改訂後
4 資料編
…事例等
…用語集
…引用文献